

在宅医療機器安全対策の推進

【目的】

・在宅医療機器の事故防止、事故や故障、災害時等の緊急時に迅速かつ適切に対応できるよう、在宅ではじめて医療機器を使用される患者や家族の方の在宅医療機器安全対策を推進する。

【現状と課題】

- 今後、ますます高齢化が進み在宅で医療を受ける患者が増加し、在宅での医療機器の使用が増加
- 患者・家族が機器の使用・管理を行うため、機器の使用方法や点検等を十分理解していないと大事故につながる恐れがある。(在宅酸素機器のたばこ火災による死亡事故、人工呼吸器の接続ミス、コンセント抜け等による重大事故)
- 災害時等の緊急対応や関係部署との連絡体制が十分でない。(人工呼吸器等の補助電源、バッテリー等の確保、緊急連絡先の把握)

取り組み

具体的事業

◎『在宅患者向け医療機器ハンドブック』作成

主な内容

- ◆導入、使用、保管管理、廃棄に至るまでの注意事項
- ◆添付文書、取扱説明書、簡易マニュアル等の活用方法
- ◆不具合、回収情報の収集・確認方法
- ◆事故、故障時の対応、災害時等の緊急時の対応や連絡体制等
- ◆人工呼吸器、酸素濃縮器、膜膜透析器、輸液ポンプ等の注意事項

◎在宅患者や家族への教育

モデル病院等で検証
(パイロットスタディ後、
修正し作成)

在宅患者に配布
(病院、診療所、訪問看護
ステーション 等)

講習会の実施
(患者・家族向け)

効果

- 患者や家族が医療機器についての安全かつ適正な使用の知識を習得
- 災害時等の緊急時の準備が可能
- 病院、診療所、メーカー等関連部署との連携や情報共有が向上

在宅での医療機器の事故や
ヒヤリハットの減少

安全・安心な医療の拡大

■事業案については大阪府在宅医療機器安全対策推進委員会で検討
(委員：医師、臨床工学技士、看護師、薬剤師、メーカー 等)